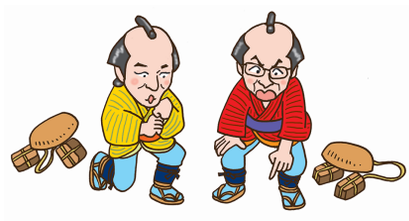
担当者が語る発掘調査

30年講座

連続講座２

2016年7月24日（日）13:30～
愛知県陶磁美術館　本館講堂
埋蔵文化財展「弥生への旅　朝日遺跡」



清洲城下町遺跡

鈴木正貴
（愛知県埋蔵文化財センター調査研究専門員）

キーワード：戦国尾張の中心地・中近世考古学研究・織田信長・残念な現状

清洲城下町遺跡は、その名が示すとおり、戦国時代の名城『清須城』を中心に広がる遺跡です。県下の中世・近世を代表する重要な遺跡なので、調査担当者はいろいろと頭を悩ませますことが多いのです。どういうことなのかまとめてみましょう。

1　清須城は１４７８年から１６１０年まで尾張の政治的中心地となった城郭です。このため、発見される遺構や遺物は、質も量もすごいことになっています。調査担当者には幅広い知識が必要となります。

2　清須城にかかわる遺跡の発掘調査は１９８２年から朝日西遺跡として始まります。愛知県の戦国時代の集落・城館遺跡としては早い時期に調査が継続的に行われたため、県下の中世・近世考古学研究を牽引する役割を担うことになりました。

3　１９８９年に開催された清須シンポジウムで、清洲城下町遺跡の重要性が全国に知られることになりました。清須城とその城下町は１５８６年を境に構造が変化しますが、清須の発展が中世から近世へ移り変わる重要な指標と評価されたのです。

4　一方で、清須城は織田信長で有名です。信長は１５５５年に清須城に入るのですが、発掘調査では信長の事蹟がよくわからないのです。一般的な関心は「信長」に集中しがちなので、説明する調査担当者は苦笑いするしかありません。

5　地域の中心である本遺跡は、調査そのものが非常に難しいです。沖積低地、重なりあう遺構、整地層中の遺構など担当者が困る要素が満載です。加えて、１３０ヶ所以上、１０万㎡の発掘調査がこれまでに行われ、全部を把握することも極めて困難です。

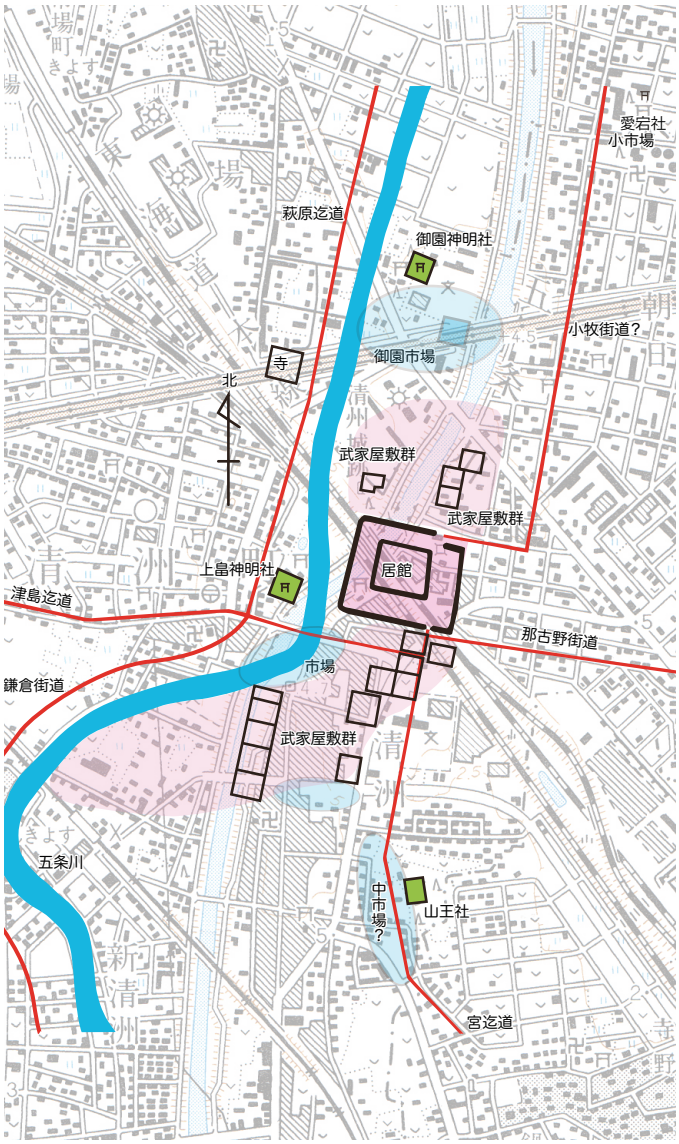
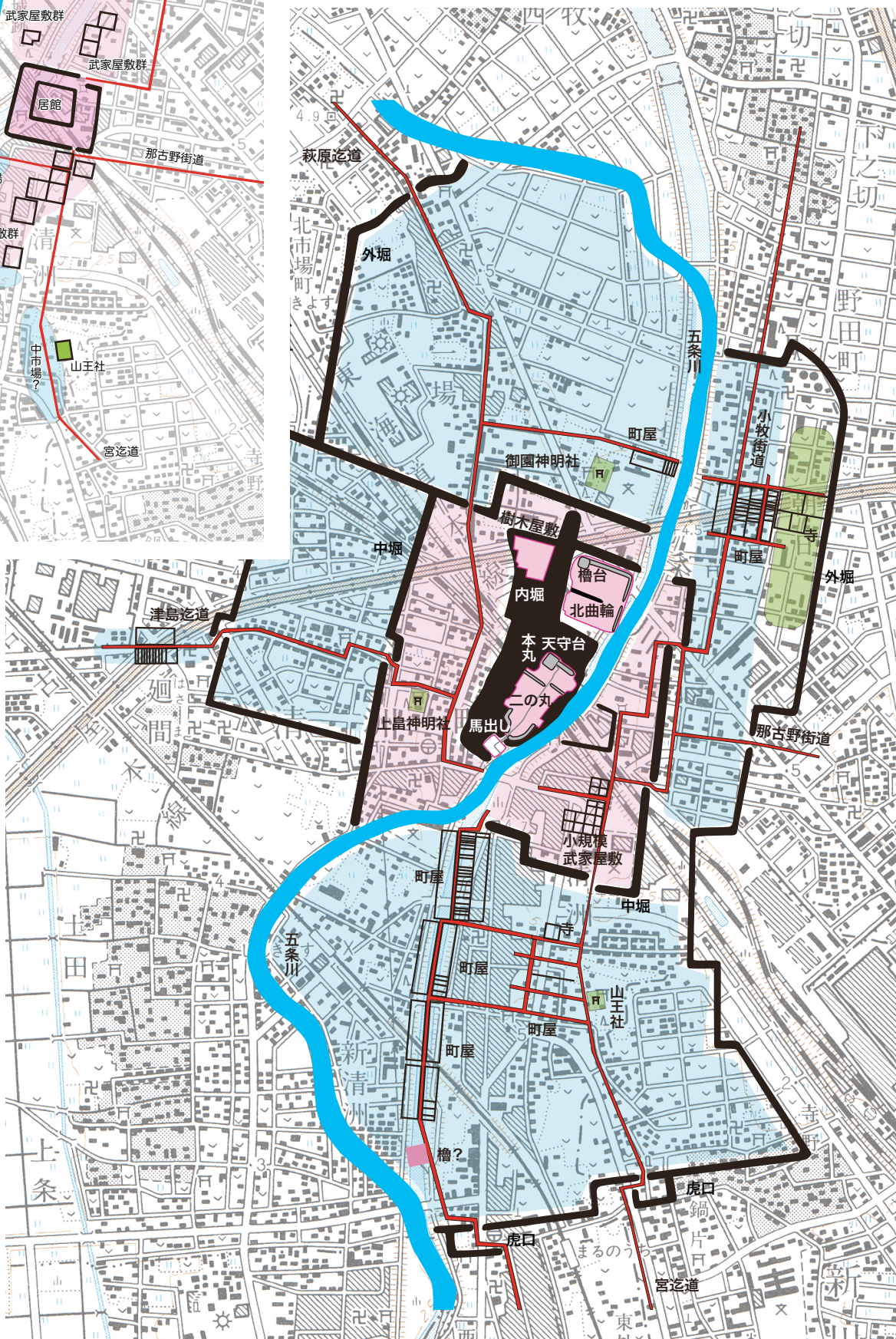
6　このような重要な遺跡にもかかわらず、清須城とその城下町を史跡・文化遺産として保存・活用していこうという気運は少ないのです。調査担当者としてとても残念です。

次回は８月７日（日）「城山城跡」、「室遺跡」、「岩座神社遺跡」

お問い合わせ先
公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
〒498-0017　愛知県弥富市前ケ須町野方 802-24
Tel. 0567-67-4163　Fax.0567-67-3054
http://www.maibun.com/top/

西暦		清須城の調査に関することがら（研究・主要な調査成果）	発掘調査区、報告書	発掘調査の調査担当者
1925年	（大正14年）	若山善三郎『愛知県史蹟名勝天然紀念物調査報告第三』清須城本丸を遺跡と認識		
1943年	（昭和18年）	林良幹『清須城懐古録』記録と地誌から幅広く考察		
1961年	（昭和36年）	東海道新幹線建設に伴うボーリング調査五条川遺跡として調査		
1965年	（昭和40年）	文化財保護委員会『全国遺跡地図（愛知県）』清須城にドットが付される		
1969年	（昭和44年）	清洲町史編纂委員会『清洲町史』		
1972年	（昭和47年）	愛知県教育委員会『愛知県遺跡地図』清須城にドットが付される		
1975年	（昭和50年）	文化庁『全国遺跡地図（愛知県）』清須城にドットが付される		
1981年度	（昭和56年度）	朝日西遺跡の本発掘調査開始	西56	榊原芳久、片山正巳、服部良夫
1982年度	（昭和57年度）	朝日西遺跡（現清洲城下町遺跡）の調査開始、城下町に関連する遺構検出	西57	遠藤才文、片山正巳、服部良夫、長島広
1983年度	（昭和58年度）		西58Ⅱ58	遠藤才文、服部良夫、金原宏、上部肇、長島広、中村美規、田中信夫、福岡晃彦
1984年度	（昭和59年度）	清洲城下町遺跡（名二環）の本発掘調査開始	西59ABCDEFGⅡ59ABCDE	遠藤才文、金原宏、佐藤公保、小澤一弘、丹羽博、服部哲也、清水雷太郎、竹内尚武、梅村清春、石黒立人、宮腰健司、安藤義弘、長島広、福岡晃彦、梅本博志
1985年度	（昭和60年度）	県埋蔵文化財センター設立、後期清須城中堀と外堀の検出・「天正十四」銘瓦出土	西60ABCDEⅡ60ABCDEF	遠藤才文、佐藤公保、安藤義弘、鷲野勉、竹内尚武、梅本博志、小澤一弘、松原隆治、長島広、丹羽博
1986年度	（昭和61年度）	後期清須城内堀の検出、清洲城下町遺跡（五条川河川改修）の本発掘調査開始、愛知県教育委員会『愛知県遺跡分布地図Ⅰ』清洲城下町遺跡の範囲(一部)	Ⅱ61ABⅣ61ABCD町大和	梅本博志、小澤一弘、細野正俊、水谷朋和、中野良法、高橋信明、浅井和宏、菅沼良則
1987年度	（昭和62年度）	清洲城下町遺跡（県道新川清洲線）の本発掘調査開始、清洲町による発掘調査開始、町教委による発掘調査報告書刊行	県62ABCDEFGHIJKLMN町ふれあい町報告書Ⅰ	細野正俊、佐藤公保、水谷朋和、鈴木正貴、中野良法、飴谷一
1988年度	（昭和63年度）	第5回東海埋蔵文化財研究会『清須一織豊期の城と都市』開催	県63ABCDEFGHKLMNQRS	梅本博志、水谷朋和、川井啓介、鈴木正貴、岡本直久、飴谷一、日比宰、佐藤公保、城ヶ谷和広、加藤とよ江
1989年度	（平成元年度）	県埋文による発掘調査報告書刊行、『清須一織豊期の城と都市』研究報告編刊行、中堀で初めて石垣発見、模擬天守建造	県89ABCDEFG町ふるさと県報告書Ⅰ町報告書Ⅱ	梅本博志、城ヶ谷和広、小澤一弘、鈴木正貴、小塚俊夫、日比宰、加藤とよ江、野口哲也
1990年度	（平成2年度）	天正13年11月発生の天正地震痕の発見	県90ABCDFG	城ヶ谷和広、遠藤才文、鈴木正貴、加藤とよ江
1991年度	（平成3年度）	五条川河川改修で初めて堤防部の調査	県91ABCDE県報告書Ⅱ西	城ヶ谷和広、鈴木正貴、小嶋廣也
1992年度	（平成4年度）	県埋文埋蔵文化財展「戦国の城とまち」展開催、清洲町にて	県92ABCDEF	大竹正吾、蟹江吉弘、鈴木正貴
1993年度	（平成5年度）	愛知県教育委員会『愛知県遺跡分布地図Ⅰ』刊行、清洲城下町遺跡の範囲が総構え全体となる	県93ABCD県報告書ⅢⅣ	大竹正吾、小澤一弘、前田雅彦、池本正明、蟹江吉弘
1994年度	（平成6年度）	後期清須城本丸東面石垣の検出と土台木出土	県94AB県報告書Ⅴ	福岡晃彦、神谷知幸、蟹江吉弘
1995年度	（平成7年度）	「清須城下町の復元的研究1995年覚書」	県95AB県報告書Ⅵ	水谷寛明、松田訓、加藤博紀
1996年度	（平成8年度）	五条川河川改修で初めて堤防よりも内側部の調査、後期清須城本丸東面石垣の検出	県96県報告書Ⅶ	増澤徹、宮腰健司、原田幹
1997年度	（平成9年度）	石垣墨書の詳細な調査、石垣はその後建設部により移築復元	県97ABC	黒田哲生、石黒立人、浅井厚視
1998年度	（平成10年度）		県98ABC	服部信博、加藤博紀、早野浩二
1999年度	（平成11年度）		県99AB	春日井毅、伊藤太佳彦、木川正夫
2000年度	（平成12年度）		県00AB	赤塚次郎、洲嵜和宏、蔭山誠一
2001年度	（平成13年度）		県01AB町福祉県報告書Ⅷ町報告書Ⅲ	石黒立人、松田訓、堀田剛史、柴垣哲彦、山崎良二
2002年度	（平成14年度）		町児童セ町報告書Ⅳ	柴垣哲彦
2003年度	（平成15年度）			
2004年度	（平成16年度）	東海考古学フォーラム『守護所シンポジウム＠岐阜』開催	県報告書Ⅸ	
2005年度	（平成17年度）			
2006年度	（平成18年度）	『守護所シと戦国城下町』刊行		
2007年度	（平成19年度）		市小学プール市報告書Ⅰ	柴垣哲彦、桐山秀穂、石松直
2008年度	（平成20年度）	金箔押鬼瓦、紀年銘柿経出土出土した金箔瓦のうち最も美しい、『信長の城下町』刊行	市小学体育館市報告書Ⅱ	柴垣哲彦、桐山秀穂、町田義哉
2009年度	（平成21年度）	きよす歴史おもてなしフォーラム「発見！発掘？清洲の魅力」開催、清須市ガイドボランティア清須城を舞台に活躍始める、模擬天守清洲城リニューアル		
2010年度	（平成22年度）	清須お城フォーラム「知られざる戦国の清須」開催	県10AB	樋上昇、奥野絵美
2011年度	（平成23年度）	清須城居館外堀北西隅の検出	県11ABC市一場,清洲広場	鈴木正貴、柴垣哲彦、筧和也、西野順二、秋本雅彦、大塚正樹、町田義哉、坂野俊哉
2012年度	（平成24年度）	愛知県陶磁資料館「戦国のあいち展」開催	市店舗,給食セ,一場病院県報告書Ⅺ市報告書ⅢⅣⅤ	柴垣哲彦、大塚正樹、町田義哉、石松直
2013年度	（平成25年度）	千田嘉博『信長の城』岩波新書刊行	市御園市報告書ⅥⅦ	柴垣哲彦、筧和也、大橋裕子
2014年度	（平成26年度）	『守護所シンポジウム２＠清須一新清須会議一』開催	市報告書Ⅷ	
2015年度	（平成27年度）		市河川改修	柴垣哲彦
2016年度	（平成28年度）			

前期清須城復元案(2012)



後期清須城復元案(2012)